説明的文章の読解力を高めるための指導方法の工夫

中２教材「包む」を通して

浦添市立神森中学校教諭

豊　島　正　幸

目　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 1
Ⅱ　研究目標 …… 1
Ⅲ　研究仮説 …… 2
Ⅳ　研究内容 …… 2
　1 アンケートの集計結果 …… 2
　2 漢字の指導について …… 3
　3 説明的文章の読み方指導 …… 4
　　(1)要約することの必要性 …… 4
　　(2)説明的文章の定義 …… 4
　　(3)説明的文章の読み方の指導法 …… 4
Ⅴ　授業実践
　1 教材名 …… 6
　2 教材について …… 6
　3 授業の流れ …… 6
　4 生徒の実態 …… 6
　5 指導目標 …… 7
　6 指導計画 …… 7
　7 公開研究授業 …… 9
　8 授業で使用した資料 …… 10
　9 授業記録 …… 12
　10生徒の変容 …… 15
　11研究授業の考察 …… 18
Ⅵ　研究の成果と今後の課題 …… 18
　1 研究の成果 …… 18
　2 今後の課題 …… 18
＜おわりに＞ …… 19
参考文献・引用文献 …… 19

説明的文章の読解力を高めるための指導方法の工夫
―中２教材「包む」を通して―

浦添市立神森中学校教諭　豊島正幸

【 要 約 】

本研究は，中学校国語科の説明的文章の読解力を高めるために，「柱」という概念を取り入れ，文章の構造を読み取り，要約する力をつけることを目標としている。

生徒たちが教師の援助なしに，自分の力で文章を読み解いていけるようにさせたいという試みである。

その結果，生徒たちの読解力に向上がみられた。

キーワード　□説明的文章　□柱　□構造読み　□要約読み　□読解力

Ⅰ　テーマ設定の理由

現代社会は，マスコミュニケーションの発達，コンピュータの普及等によって，自ら行動することもなく，大量の情報をえることが容易になっている。氾濫する情報の渦の中で，自己に必要な正しい情報を選択し，自己の価値観を形成していかなければならないという困難な作業をする能力が私たちに求められている。このような能力を養成することは学校教育の中でも行われなければならない。中でも，情報を読み，理解し，判断する能力の養成は，国語教育の重要な課題である。

学習指導要領によると，中学校国語科の目標は，「国語を正確に理解し適切に表現する能力を高めるとともに，思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし，国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」となっている。

すなわち，①理解力，②表現力，③思考力，④想像力の４つをのばすことが基本とされている。そして，この４つの力（とくに①②③）を伸ばすために重要な役割を担うのが，説明的文章である。具体的に述べるなら，

①　「理解力」は，文章を読んでその字句の意味を把握するのみでなく，筆者の考え方の特徴や意図を見抜く力もつけることができる。

②　「表現力」は，その筆者の思考の仕方や文章の展開の方法，及び，語彙とその使い方を習得することができる。

③　「思考力」は，文章の意味を考えること，書かれていることの真偽を検討・吟味すること，さらに，筆者の考えに対する自分の考えを持つこと，等を育むことができる。

ところが現在，国語教育では，文学教材の指導方法に関しては多くの試みや研究がなされているのに対して，説明的文章の研究はあまり多くないのが実情である。そのような中で自分も，説明的文章の授業は，相変わらず，読んで，段落ごとに要約して，要旨をまとめて終わり，というパターン化された味気ない授業を続けてきた。ただでさえ，生徒たちにとって，説明的文章は小説や詩などといった文学教材より，親しみにくく面白味に欠けるというイメージがある。このような授業では，４つの力を伸ばすという目標を達成するのはなかなか困難なことである。生徒たちが興味・関心・意欲を持って取り組めるような授業，そして，基礎的な学力が身についていくような説明的文章の読解力を高める授業を創り出していきたい。そこで，これまでの授業を反省し，先達の優れた実践記録に学びながら，自分なりの指導方法を工夫してみたいと思い，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

説明的文章の読解力を高めること，すなわち，文章の構成を見抜き，要約する力を育む指導方法を工夫する。

Ⅲ　研究仮説

1　漢字指導・難解語句の指導を行うことで，　文章の理解を容易にすることができるであろう。

2　文章の構造をおさえる方法を習得させるならば，的確な要約力もつくであろう。

Ⅳ　研究内容

1　説明的文章の授業に関するｱﾝｹｰﾄの集計結果

検証授業をおこなうに当たって，事前にｱﾝｹｰﾄを実施した。

(1) ｱﾝｹｰﾄ実施日：平成８年６月20日(木)

(2) 対象学級　　：神森中学校２年５組(３７名)

(3) 集計結果は以下の通りである。

① 国語学習における教材文章のなかで，ア小説・物語、イ詩・短歌・俳句，ウ説明文，エ伝記・随筆，オ古典の５つをあげ，好きなものの順位をつけさせた。そして，その中で「説明文」がどのくらい好まれているかをみてみた。

ア　学習する教材文章の中での説明文の順位

1位	2位	3位	4位	5位
0％	16％	35％	35％	14％

結果は，３位、４位と回答した生徒が同数でもっとも多く，いちばん好きだと答えた生徒はいなかった。特に嫌われているというわけではないが，全体的にみると，やはり説明的文章に対して生徒たちは少々取っつきにくい印象を持っているのではないかと推測できる。

元々，知的好奇心の高まりつつある中学生にとって，説明的文章は題材によっては，その欲求を満たすのに格好の読み物になるはずである。しかし，このようにあまり好まれてはいないという結果がでたのはどうしてなのだろうか。その要因はどんなことであろうか。

まず考えられることは，説明的文章の内容や表現に対する生徒自身の興味・関心の強弱が関わってくる。この場合，生徒が興味・関心のあるものと教科書教材の内容が合致しているかどうかという問題がでてくる。

また，これまでにどのような学習をしてきたかという学習経験も大きく関わってくる。どんな説明的文章の授業を受けてきたのか，教師の指導のあり方に原因はなかったのだろうか。

自分の興味あることがらについて様々なことを教えてくれる説明的文章は本来おもしろいはずである。けれども，それが取っつきにくい堅い文章であったり，理屈で押し固められた文章で，述べられている対象を身近に感じることができなければ，興味を示さないであろう。

また，せっかく興味ある文章であっても，説明的文章の授業において，段落分け，要点・要旨のまとめという単調で画一的な授業を繰り返していると，生徒が飽きてくるのは仕方のないことである。

② 説明文を学習する内容として，ア，文章を音読する　イ，文章を黙読する　ウ，文章の感想を書く　エ，語句の意味を調べる　オ，段落分けをする　カ，段落ごとに小見出しをつける　キ，キイワードを見つける　ク，指示語のさす内容を見つける　ケ，段落ごとの要約をする　コ，文章の要旨をまとめる　サ，文章構成を考える　シ，筆者の主張に対する自分の考えをまとめる　ス，漢字練習をする　セ，他の文章を読む

の中から好きなものを挙げさせたアンケート集計で，反応率の高かったものを抜き出したものである。

イ　説明文の学習で好きなもの(反応率の高かったもの)

1位	2位	3位
黙読（43％）	漢字の練習（38％）	語句の意味調べ（27％） 段落分け　（27％）

いちばん好まれているのが黙読で，次が漢字練習，三番目が語句の意味調べと段落分けとなっている。苦しさを伴う思考力を要する活動は好まれず，比較的単純で気軽にできる活動を好んでいることが伺える。物質的に恵まれた現代っ子たちの様相を反映し

た結果だとも言えるが，おもしろい学習，わかりやすい学習など，生徒にとって好印象のものに反応したと思われる。従って，説明的文章の授業で育みたい，サ文章構成，ケ要約，コ要旨，シ自分の考えをまとめる等に，どのような指導方法で意欲的に取り組ませるのかが課題となる。

③　イと同じ選択肢の中から苦手とするものについて反応率の高かったものを順に抜き出したものである。

ウ　説明文の学習で苦手なもの（反応率の高かったもの）

1位	2位	3位
感想文（30%）	要旨をまとめる（27%）	構成を考える（24%）

感想を書くことをいちばん苦手としていることが分かる。また，要旨をまとめること，文章の構成を考えることなど，精神的労作を伴うものを苦手としている。これらは，かなりの思考力や論理性を要求されるので抵抗感が生まれてきているのであろうか。このような学習に際しては，「分かった」「できた」「大変だったけど楽しかった」という成就感，成功感を味わえるような授業を工夫する必要があるだろう。

④　授業の中で辞書等で意味を調べたり，意見や感想を発表したりすることに対して，どういう気持ちでいるのかを問うた。

エ　授業の中で，調べたり，発表したりすること

ア どんどんやりたい	２２％
イ ときどきやりたい	３０％
ウ 調べるのはいいが発表はやりたくない	４８％
エ どちらもやりたくない	０％

この結果をみると，生徒たちは辞書等で調べたりして新しい知識を得ることはかなり好きであることが分かる。また，ア，イを合わせると，半数以上になり，このような学習に対して，かなり積極的な姿勢をもっていることが分かり，大変好ましい状況にある。発表することや調べることを説明的文章の授業にどんどん取り入れることで，生徒たちの意欲的な学習への取り組みを促すことができるのではなかろうか。

2　漢字の指導法

新出漢字等の指導を毎時間始業後十分ほど行う。

①　新出漢字を覚えさせる方法

1段階	指書き
2段階	なぞり書き
3段階	写し書き

指書き　－　筆順を見ながら，机の上に指で書く。
　　できるようになるまで書かせる。
なぞり書き　－　印刷されている漢字の上を鉛筆で
　　丁寧になぞる。
写し書き　－　空欄に鉛筆で書く。

※漢字の練習プリント
　新出漢字・その筆順・ミシン目の漢字（なぞり書き用）・何回か練習できる空欄を設ける。

②　豆テストの実施
・漢字10問をプリントして配布し，テストを予告する。
・新出漢字を中心に予告問題をそのまま出題する。
・次の時間は一回目で満点を取れなかった人だけやる。（満点の人は自習）
・２回目のテストで満点を取れなかった人はあとで個別指導をする。

3　説明的文章の読み方指導

(1) 要約の必要性の指導

日常の言語生活の中で，他の人の話や文章を的確に要約して，他の人に話したり，書いたりして表現することは，誰にとっても必要な言語能力である。人の話や文章の全部を記憶することは不可能なことである。だから，必要最小限の長さに要約する能力が求められるのである。情報化社会や国際化社会に生きる私たちにとって的確な要約力は不可欠な言語能力なのである。

以上述べたことを生徒たちに話して，文章を要約することの必要性を理解させ，動機づけをする。

さて，説明的文章の授業で中心になっているのは文章を要約すること，構成を考えることの二つである。以下生徒が実際に活動できるように具体的な手だてや方法を述べる。

(2) 説明的文章の定義

「説明的文章」は，文学作品以外の文章の総称として使われる。「説明的文章」の定義については諸説あるが，ここでは大西忠治氏の見解に立つことにする。大西忠治氏は次のように述べている。

① 説明文と説明的文章は同じものとしない。区別して使用する。それは概念の包含する範囲が違うからである。

② 文学作品以外の文章の総称として「説明的文章」の用語を使用する。

③「説明文」は「説明的文章」の中に含まれ，「説明的文章」より狭い範囲を示す。(随筆の場合は，文学作品と説明的文章の両方にかかわる中間的なものと考える。)

④ 説明的文章の文章内容を構成する基本的要素は「事実」と「論理」である。

⑤ 説明的文章の基本的読み方は，「事実読み」と「論理読み」の両者によって規定される。

また，説明的文章のジャンル分けとして，次の三つに分類することを提唱している。

①記録文　②説明文　③論説文

分類の基準として，まず「説明的文章」を，「時間の順序によってかかれているかいないか」を基準にして大きく二大別する。

A 記録文（時間的順序でかかれている）

B 説明文（時間的順序でかかれていない）

Bの，時間的順序でかかれていないもの，つまり「説明文」は，実際には，説明的文章の大部分のものを含んでいる。「記録文」と呼ばれるものはむしろ少ないのである。だから，この「説明文」を更にどう分類するかが重要なのであるが，それを「仮説」が入っているかどうかを基準にして分けるのである。

B説明文（仮説が入っていない）

C論説文（仮説を含んでいるもの）

このように，「説明的文章」を三種類に分けることができる。

(3) 説明的文章の読み方の指導法

説明的文章の基本的な読み方の指導法は，三読法，つまり，①構造読み，②要約読み，③要旨読みの三つの指導段階を踏んで授業をする。読み方の指導として，記録文と説明文・論説文を区別して行う。ここでは説明文・論説文の読み方の指導法を詳しく述べる。

＜説明文・論説文の構造読み＞

説明的文章には，昔から三部構造が定説化している。すなわち，説明文では（前文・本文・後文）＝（まえがき・本文・あとがき），論説文では（序論・本論・結論）のそれである。だから，それぞれの構造読みは，まず段落番号を打ち，段落をめどにして，全体を先の三つの部分にまとめることになる。この三つの部分を読みとるために何を客観的な拠り所にするかというと，＜柱の段落＞という概念を導入する。＜柱＞とは，他（文・段落）を包み込むような大きな内容を持った（文・段落）のことである。＜柱の段落＞と＜柱でない段落＞との関係を読みとることで，三部構造を読みとっていく。

＜要約読み＞

要約読みで，最も重要な「読み」の中心は，文と文との関係，段落と段落の関係を「読む」ことである。文章における文と文（段落と段落）の関係には，基本的には，二つの関係がある。

A　柱＝柱でない文（柱に含まれる内容）

B　柱＋柱（柱とは違った独立した内容）

文と文の関係には＝か＋かの二つの関係があるこ

とをまずおさえるのである。そして，Aの＝の関係は，柱と柱でないものとの関係であるが，この場合

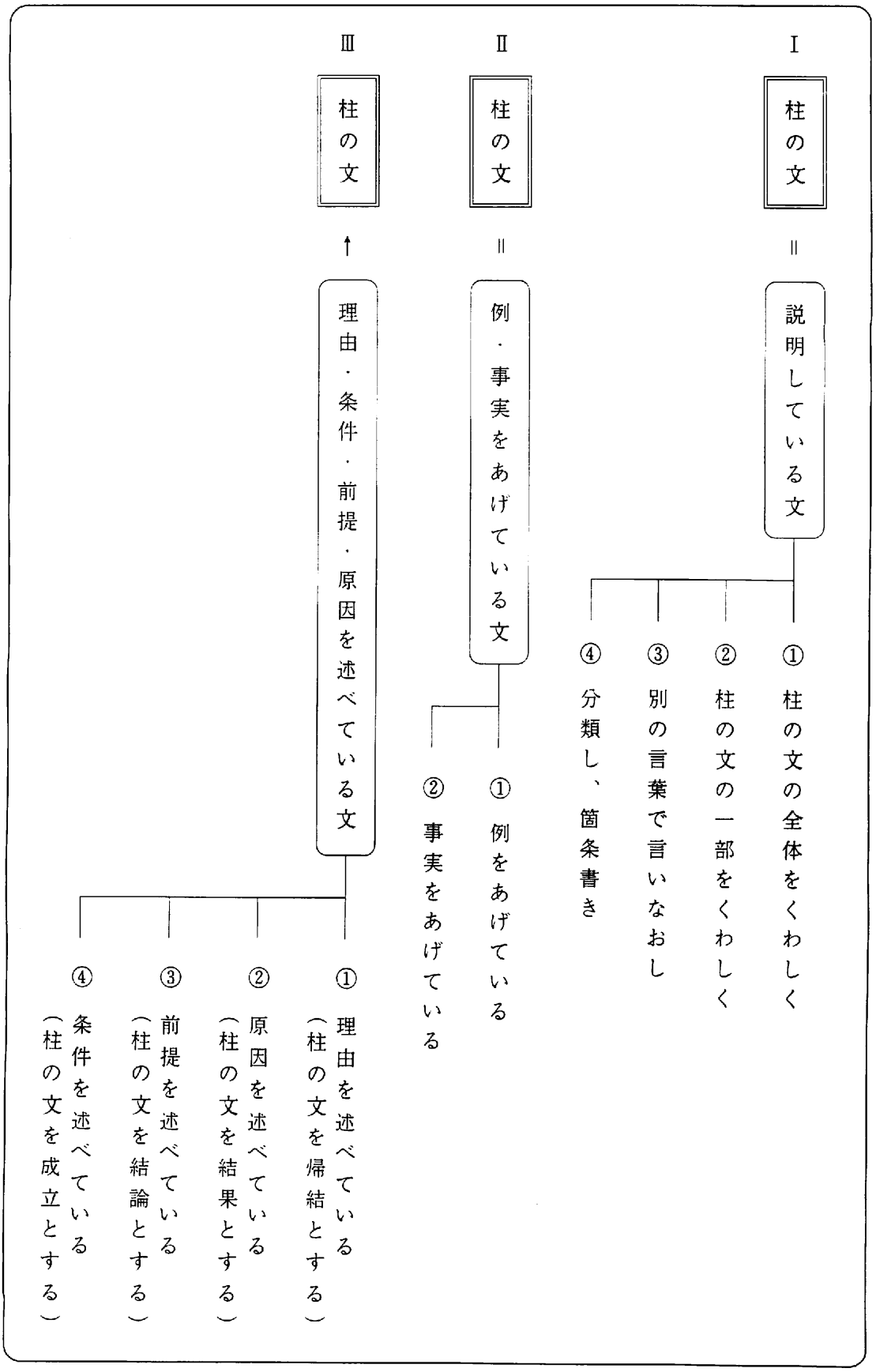
① 柱＝くわしい説明の文

② 柱＝例

③ 柱←理由（前提→結論）（原因→結果）

の三つの関係を読みとることを重視する。

「柱の文と柱以外の文の関係」



＜要旨読み＞

要旨読みは，文章全体の要約のことであるが，同時にそれは文章全体の結論をも意味している。段落 → 文 → 要旨としぼりこむ過程で，柱と柱以外の関係の中に，不明なところ，不充分，よじれをあきらかにし，確かめる吟味読みが含まれているし，各段落の柱の文（要点）を集約して書き出された要旨へと至る過程の中にも吟味が行われてはじめて，要旨よみとなるのである。さらに，最後に到達した要旨そのものに対して，理解と納得がいくか，理解できないところがあるか，理解できるがそれに反論したいかの三つの態度を明らかにし，その理由が述べられることが大切である。図示化したのが図１である。

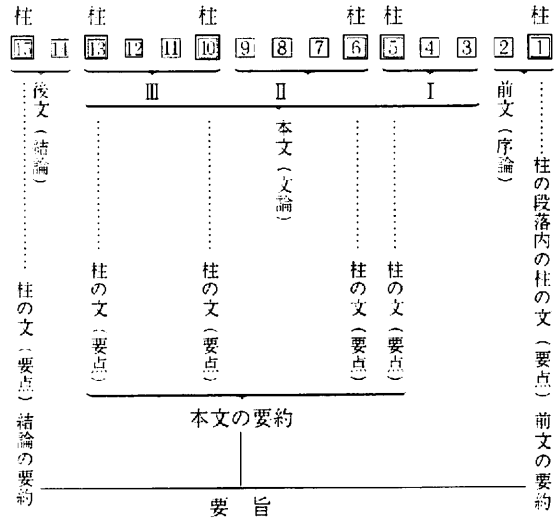


図１　要旨のまとめ方「国語評論　８」より

Ⅴ　授業実践

学習指導案

１　教材名「包む」

２　教材について

教材「包む」は，言語心理学者であるやまだようこが伝統的な行動様式から日本文化をとらえた論説文である。筆者の独特の視点で「包む」という行動から，日本の文化が語られている。

具体例として，「ｔｕｔｕｍｕ」という名の展覧会，ふろしき，ファッション，ラッピングなど身近なものを挙げて，論をわかりやすく展開している。私たちの日常生活から消えつつあるふろしきと，若者たちのファッション的なこだわりとを関連づけて話していて，かなりの説得力があり，生徒たちにも興味関心を抱かせる内容になっている。

序論で「『包む』ということは，日本文化の心理を表す重要な概念のひとつだ」と考え（仮説）を述べ，本論で具体例をあげて論証していき，結論の「本当に大切なものは，裸でむき出しのものよりも，何かの中に包まれていた方が，自然で安定していると感じられるものである」と結んでいる。

３　授業の流れ

（1）構造よみ ‥ 三部に分ける（接続語や内容に注意して）

（2）要約よみ ‥ ①　柱の段落を探し，柱以外の段落との関係を考える。

②　柱の段落内の柱の文を探し，柱以外の文との関係を考え要約する。

③　②の要約を削ったり，補ったりして各部分の要約文をかく。

（3）要旨読み ‥ ①　各部分の要約文をつなぎ合わせて，要旨をまとめる。

②　要旨に対する自分の考えや感想をかく。

４　生徒の実態

生徒たちは日頃テレビを見たり，マンガを読んだりゲームをする等はよくやるけれども，本を読む，とりわけ，説明的文章のようなものに触れる機会は授業以外ではとても少ないというのが実状のようである。

また，普段の授業でも，小説などの教材に比較して，説明的文章は堅苦しい面白味に欠けるイメージを持たれているようだ。

アンケートの結果では，生徒たちが苦手と感じていることは，「感想を書くこと」「要点をまとめること」「構成を考えること」「要約すること」等である。自ら考えることを苦手としていることが，推察できる。

このクラスは明るく元気があり，発表力のある生徒が多いので，それを生かせるような授業を組み立てていこうと考えている。

5　指導目標

(1)　文章の論理的な構成や展開をおさえ，筆者の考えをつかむ。

(2)　各段落の要約や文章全体の要旨をまとめることができる。

(3)　筆者の考えに対する自分の感想や意見を持つ。

6　指導計画（全6時間）

	学　習　活　動	主な発問・指示・説明	指導上の留意点
第一時	1．題名読み	・「包む」という題名から，どんなことを想像しますか。	・発表をさせ，教材への興味を持たせる。
	2．学習目標を確認する	・この教材の学習目標は， ①文章の理論的な構成や展開をおさえ，筆者の考えをつかむ。 ②各段落の要約や文章全体の要旨をまとめることができる。 の2つです。	・この教材の目標を全員で確認する。
	3．全文を読み，どんな話題かを把握する。	・鉛筆を持ち，読み仮名をつけるように指示する。	・教師が丁寧にゆっくり読む。
	4．新出漢字の練習をする。	・これから，新出漢字の練習をします。	・「指書き・なぞり書き・写し書き」の3段階方式で行う。
	5．語句の意味を確認する。	・各自，辞典で調べるように指示する。	
第二時	1．今日の目標の確認	1．今日の学習の目標は，構造読みとはどのようなものかを理解することです	
	2．教材の文章の性格を確認する。 ＜構造よみ＞にはいる。	・「包む」の文章の種類はなんですか。 ・では。これから文章全体構造を考える「構造読み」をやっていきます。 その前に，構造読みとはどんなものか説明しますのでよく聞いて下さい。 ※「構造読み」の説明をする。	・説明的文章のなかの論説文であることを説明する。
	3．形式段落に番号をつける。	・それでは，まず，形式段落に，番号をつけて下さい。	
	4．柱の段落と柱以外の段落との関係を読みとる。	・柱の段落を探して，それ以外の段落との関係も考えて下さい。	・柱とは何かについて例をあげて説明する。
	5．新出漢字の練習をする。		・席をハの字型にし発表もグループ単位で行う。
第三時	1．今日の目標の確認	今日の目標は， ①文章全体を3つに分けること ②話し合いを活発にして多く発表することの2つです。	
	2．「前時の学習」をもとに，全体を序論・本論・結論の3つの部分に分ける。	・柱の段落をもとに，文章全体を序論・本論・結論の3つに分けて見ましょう。	・話し合う時間は，制限する。
	3．班ごとに意見を発表させる。	・～班，発表して下さい。	・なぜそう考えたのか理由も言わせる。 ・2番目以降に発表した班は，前に発表した班の意見に関連づけて発表させる。
	4．新出漢字の練習をする。		

	学習活動	主な発問・指示・説明	指導上の留意点
第四時	1．新出漢字の練習をする ※要約読みについて説明する。 ＜要約読み＞に入る 2．語と文の表している意味（筆者の捉えている「事実」）が実際の事実と照合しているかを確かめる。 3．文と文の関係をたどって，形式段落の柱の文を見つける。 4．柱の文を基に，その段落を要約する。	・では，これから要約読みをやっていきます。 ・30字くらいでまとめて下さい。	・3段階方式で行う。
第五時	1．今日の目標を確認 2．段落と段落の関係をたどって柱の段落を見つける。 3．柱の段落を基にその部分の要約をする。 4．要約文をワークシートに書いて発表する。 5．まとめと評価 6．新出漢字の練習をする。	今日の目標は，柱の段落を見つけてその要約をすることです。 ・既に学習したので，復習になりますが，柱の段落を確認していきます。 ①まず，序論の柱の段落どれですか？ ②本論の柱の段落はどれですか？ ③結論の柱の段落はどれですか？ ・では，今確認した柱の段落をもとに，各部分の要約をして下さい。 ・では，発表できる班はどうぞ。 ～班発表して下さい。	・字数を指示する。 ・いくつかの班に発表してもらう。 ・3段階方式で行う
第六時	1．今日の目標の確認 ＜要旨読み＞に入る。 2．各部分の要約を基に全体の要旨をまとめる。 3．要約や要旨が論理的に正しく導かれているかどうか，現実の事実と合っているか確かめる。 4．検討した結果を発表してもらう。 5．筆者の説明や主張に対して感想や意見を書く。 6．新出漢字の練習をする	・今日の目標は，要旨をまとめて自分の感想を書くことです。 ・各部分の要旨をつなぎ合わせて，削ったり，補ったりして300字以内にまとめて下さい。 ・要約や要旨が論理的に正しいか，矛盾はないか。また，現実の事実と違った点はないか。検討していきましょう。 ・では，話し合った結果を発表して下さい。 ～班，どうぞ。 ・では，授業のまとめになりますが筆者の説明や主張に対して，感想や意見を書いて下さい。	・班で話し合う。 ・感想や意見を発表させる。 ・3段階方式で行う。

7　公開研究授業

(1)　目　標

①　柱の段落を押さえて，序論・本論・結論に分ける。

②　班の話し合った，結果を適切に発表する。

(2)　学習指導過程

平成８年６月27日（木）２校時

２年５組　男子19名，女子18名　計37名

学　習　活　動	主な発問・指示・説明	指導上の留意点
１．前時の復習 「柱とは何か，柱の段落とは」の復習をする。	・前時にやったことを思い起こしてみます。	・生徒たちに発問して答えをもらう形でやっていく。
２．今日の学習の確認	・今日の，柱の段落を押さえて文章全体を序論・本論・結論・の三つに分けていきます。	
３．文章全体を三つの部分（序論本論・結論）に分ける。	・では，接続語にも気をを配って，どこで分けるのか，班で話し合って下さい。時間は15分です。	・机間巡視して，話し合いがスムーズに行くように各班に声をかける。
４．話し合いの結果を発表する。	・はい，時間です。発表する班は手をあげて下さい。 ・～班さん。どうぞ。	・できるだけ自主的に発表させるようにするが，発表がない場合には，教師が指名する。
５．教師は発表結果を板書する	・意見を言うときは，その理由も発表して下さい。	・二番目以降に発表する班は，前に発表した班の意見に関連づけて発表させる。
６．話し合いの結果をまとめる。	・それではいろいろな意見が出ましたので，まとめに入ります。 ①　序論は～までです。 ②　本論は～から～までです。 ③　結論は～から～までです。	・なぜそうなるのか根拠を示しながら，まとめていく。
７．新出漢字の学習	・最後にいつものように漢字の練習をする。	・三段階方式で行う。
８．今日の授業の評価をする		・今日の学習を評価することで，次への意欲を持たせる。
９．次時予告		

8　授業で使用した資料

説明的文章の学習の資料

二年	組	番	

1「柱の段落」の見つけ方

①ある放送局で、中学生を三十人ばかりスタジオに集めた。「いじめ」問題について中学生の意見を聞くためである。
②集まったのは、まずいじめで自殺した生徒のあるA中学校の生徒十名であ。そして、その他は、自分もいじめられたという中学生が十名である、この二十名については特定の学校ではなく、一般の中学生に呼びかけて集まってもらったのである。
③いじめの問題については、先生方の意見を聞くのも親の意見を聞くのも重要である。けれども、当事者である中学生の意見をまず第一に考えてみることが重要であると考えたからである。

①段落は、②段落と③段落をまとめて、②段落と③段落をつつみこんでしまう内容をもった段落だということがわかるだろう。
①段落の「中学生を、三十人ばかりをスタジオに集めた」を②段落では、もっとくわしくどんな中学生であるかを説明している。
③　段落は、「中学生の意見を聞くため」という①段落の内容を、もっとくわしく説明している段落なのである。

「柱の段落」を見つけよう
こう見ると、①は②③をつつみこみ、ふくみこむ段落なので、さきにのべたAにあたる。②と③は、Bにあたることがわかるだろう。このような、他の段落をふくみこみ、つつみこむような内容をもったAのような段落を〈柱の段落〉とよぶのである。こういう柱の段落を見つけだすと、文章の構造はかんたんに読み分けられるのである。

出典　上段　大西忠治　「説明的文章の読み方指導」明治図書
　　下段　大西忠治　「国語おもしろ勉強法」民衆社

2「柱の文」の見つけ方

①アメリカでは、ガソリンでなく蓄電池で動く自動車がさかんに作られています。
②これは遠いところへいくのではなく、会社に通ったり、買い物に出かけたりするときに使う自動車で、一度充電すると、百二十キロくらい走れます。
③ガソリンより安あがりなので、アメリカではひっぱりだこです。

これはある中学用の教科書にはいっていた文章で、もちろん十年も前の古い内容の文章である。
②の文は①の文〈蓄電池で動く自動車〉を、「これは」と指示することばで受けて、〈遠いところへ……使う自動車〉と、くわしく内容を説明している文だとわかるだろう。つまり②の文は①の文の一部へ入り込める。①の文は②の文をつつみこんでいる、ふくみこんでいると考えられるのである。
③の文のほうに、①の文の「さかんに作られている」理由を書いているわけである。だから③の文も①の文の一部にふくみこまれ、入りこめる文ということになる。
この①の文のように②の文や③の文をふくみこむような、②の文や③の文より広い範囲の内容をもった文を「柱の文」というわけである。
だから「柱の文や段落」は、他の文や段落より、広い内容、大きい範囲のことを書いた段落や文のことだといえる。広く大きい範囲の内容をもっているから他の段落や文をふくみこみ、つつみこむことができるわけである。

「柱」と「柱以外」の段落や文の関係
Ⅰ柱←→いいかえ・説明（柱をくわしく説明している文や段落）
Ⅱ柱←→例（例や事実で柱をわかりやすくしている文や段落）
Ⅲ柱←→理由・証拠（理由やそうなるための条件や証拠となることを述べてある文や段落）
Ⅳ柱←→柱（お互いに内容が違っていてふくみこみつつみこむ関係がない場合、どちらも柱なのである）

説明的文章の学習の資料

〈ワークシート〉　　年　組　番　名前：

『包む』　やまだようこ

目標
1　文章の論理的な構成や展開をおさえ、筆者の考えをつかむ。
2　各段階を要約や文章全体の要旨をまとめることができる。

三段落構成	形式段落	文番号	内容	要約	要旨	要旨に対する自分の考え
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					

9　授業記録

教　師　の　活　動	生　徒　の　反　応	指導上の留意点
・「包む」に入って3時間目ですが，今日は，「包む」の文章全体の構造はどうなっているのかを考えていきます。もっと具体的にいうと，文章を「序論」「本論」「結論」という3つの部分にわけていきます。 今日の授業の目標は2つあります。 1　文章を3つに分けることができるようになる 2　班の話し合いを活発にして，できるだけ多く発表する。	・「正座。」「礼。」「お願いします。」	・挨拶は，しっかりさせる。
では，教科書を開けてください。68ページです。教科書を開けたら，形式段落に番号を打っていってください。1字下がっているところ全部です。	・教科書を開けて，形式段落に番号をつける。	・遅れがちな生徒は，巡視指導をする。
・全部で何段落ありますか？	・「23あります。」何名かの生徒が声を出す。	
・はいそうです。 ・全部で23段落あります。 ・23段落あるのを，3つに分けていきます。 ・説明的文章の3部構成について説明しますので，黒板をみてください。		・白紙に書いた，「3部構成」をよく見えるように速やかに掲示する。
「3部構成」について詳しく説明 ①　序論…問題や課題の提示をしている。 ②　本論…事実や例を挙げてくわしく説明している。 ③　結論…要約や結論の形で全体のまとめとなっている。		
・それから，「柱」という話しですけど，次はこれです。	・説明を真剣に聞いている。	・白紙に書いた，「柱と柱以外との関係」を速やかに掲示する。
「柱と柱以外の関係」について詳しく説明 ・柱と柱以外の段落や分の関係には，3つの関係があります。 ①「柱」＝ 柱をくわしく説明 ②「柱」＝ 例や事実で柱をわかりやすくする ③「柱」← 柱の理由・原因・条件・前提		・説明は，できるだけ具体的に分かりやすく心がける。

教　師　の　活　動	生　徒　の　反　応	指導上の留意点
・次に「柱」について説明します。 「柱」について詳しく説明 「柱」を瓦葺きの家に例えて話す。 「柱」には，柱の段落と柱の文があり，文章全体の中に柱の段落，段落の中に柱の文があること。柱の段落や文は，他の段落や文を含みこむ大きい内容を持っていること等を話す。	・説明を真剣に聞いている。	・説明は，できるだけ具体的に分かりやすく心がける。
・では，これから班で話し合って，「序論」は1から何番まで，「本論」は何番の段落から何番まで，という風に分けていきます。今ワークシートを配ってありますね。①内容②柱③初めの接続語の3つに注意しながらどこで分けたらいいのか，考えてください。	・ワークシートをみている。	
・ここまで大急ぎで，説明してきましたが，聞き漏らしたことや，説明が十分でないところがありましたら，手を挙げて質問してください。 ・ありませんか？	・誰も手を挙げない。	
・では，これから教科書を読んで，みんなに話し合ってもらいますが，時間は15分間です。15分たったら，各班に発表してもらいますが，発表の仕方はだいたいこういう形でやってください。 「発表の仕方」の説明 ・班全員で手を挙げ，起立して大きな声で，そう考えた理由まで言う。 ・既に発表した班があるときは，その意見に関連づけて言う。	・黒板に，注目している。	・「発表のやり方」を白紙に書いたものを掲示する。
・3つのことに注意して，どこで分けたらよいか，班毎に相談してください。	・各班とも，熱心に活動している。 ～各班の話し合い～	・各班を巡視して援助する。
・残り時間後2分です。そろそろまとめてください。なぜそう考えたのか，理由も考えてください。 ・では，そろそろ時間ですので，話し合いをやめてください。 ・発表してもらいましょう。 ・顔を上げてください。 ・これから発表してもらって，いろいろ意見が出ると思うので，どっちがより正しいのか，		・時間通り切らないと，発表してまとめる時間がなくなるので，すぐ切り上げる

教　師　の　活　動	生　徒　の　反　応	指導上の留意点
みんなで考えていきましょう。 ・では，発表する班はどうぞ。 ・間違ってもいいですから，積極的に発表してください。		・発表するよう促す。
・はい，じゃあ，5班さん。 ・5班さんが発表するそうですから，静かに聞いておいてください。	・5班は，すぐにはそろわなかったが，全員手を挙げる。	・他の班の発表をちゃんと聞いておくよう指示する。
・はい，まず，「序論」はどこまでですか。 ・「本論」は？ ・「結論」は？	・1から3までです。 ・4から20までです。 ・21から23までです。	
・どうして，このように分けたのですか？	・1から3までは，展覧会の話が書いて合って，4から20までは，「ふろしき」の話を心に，具体的に説明してある。	・そこで分けた理由も発表してもらう。
・接続語にも，注意するように，もう3回ぐらい言いましたね。 ・ここで句切ったのは，どうして？	・本論を4から18，結論を19から23に変えます。 ・……	
・はい。5班は，こういう風に分けました。これと違う考えの班はいませんか？ ・はい。4班さんどうぞ。	・はい。（4班全員手を挙げる） ・5班とは，違う考えです。「序論」は1から6。「本論」は7から18。「結論」は19から23。	
・ここで切ったのは，どうしてですか？	・「序論」は筆者の思ったことや考えたことを書いてあるから「本論」は「ふろしき」の説明をしているので。	・そこで分けた理由をはっきり述べてべてもらう。
・「結論」は？	・「ところで」という接続語があるから。	
・「ところで」があるとどうなるの？	・話が変わる。	
・今でている2つの班と違う意見の班はありませんか。		
・では，2つの班のどちらかと同じ意見の班はいませんか？	・（手を挙げて）2つの班のどちらかに賛成の意を表明。 1・2・3班は，4班に同じ 5班は5班だけ。6班不明。	

教　師　の　活　動	生　徒　の　反　応	指導上の留意点
・それでは，各班の意見をまとめていきます。 ・まず，「序論」じゃら見ていきます。 ・黒板に注目してください。 **板書を見ながら，各班の意見をまとめる** ・①段落から⑥段落まで展覧会の話で，⑦段落に「だが」という接続語が入り，「風呂敷」の話題に変わります。⑱段落まで「包む」伝統について述べ⑲段落で接続語「ところで」がきてまとめにはいっています。ですから，①から⑥までが序論。⑦からに変わります⑱まで本論。⑲から㉓まで結論となります。 ・こういう風に，接続語とか，その内容を考えてまとめると，「序論」は，1から6。「本論」は，7から18。「結論」19から23となります。1・2・3・4班は正解で，5・6班さんは惜しかった。ただし，全く間違ったわけではないし，途中で考えを変えたしね。ここに気づいたのはよかったですね。 ・次回は，6班ともばっちりまとめられるんじゃないかと思います。 ・時間がきてしまいました。各班とも，最初は手が挙がりませんでしたけど，5班さんが発表してから，他の班も次々と挙がったのでよかったと思います。 ・今日は，どういう構成になっているかやりましたので，次の時間は，内容に具体的に入っていって，「要約」を中心に，授業を進めていきます。 ・では今日はこれで終わります。	・教師の説明を真剣に聞いている。 ・「正座。」「礼。」 「ありがとうございました。」	・内容や接続語に注意しながら，わかりやすく説明する。 ・終わりの挨拶をきちんとやる。

10　生徒の変容

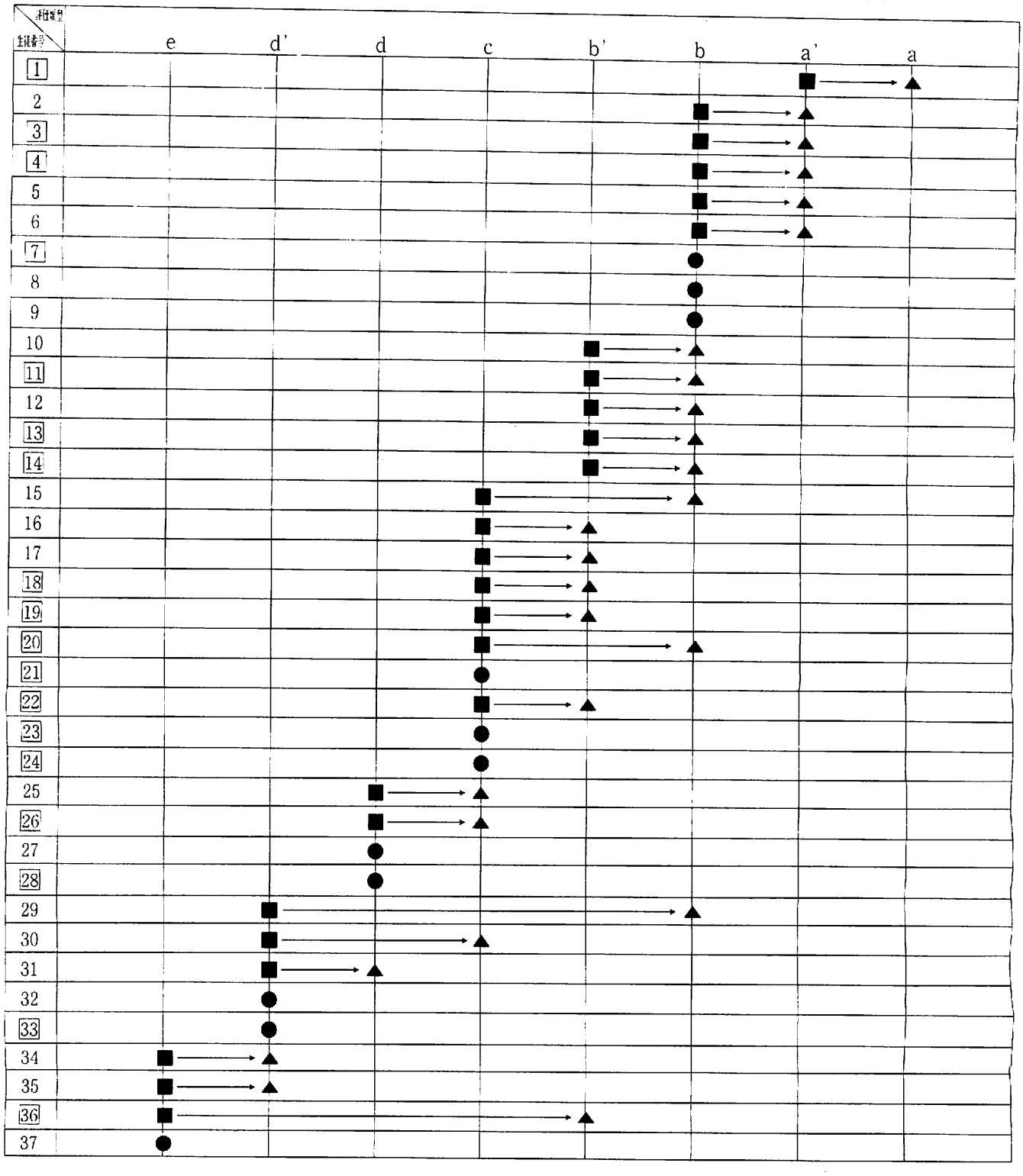
生徒の変容を見るために，授業前と授業後に要約力テストを実施した。使用した教材は，井上忠司「視線を避ける文化」である。教材をプリントして配布し，段落の要約を書かせて提出させ，採点集計した結果をグラフと表であらわした。採点の観点と評価記号は，以下の通りである。

採点の観点	評価類型
＜全体的な把握＞	
1　全文の要点を完全にまとめている。	a
2　大体において順序立ててまとめている。	a′
3　あらましはまとめているが部分的な誤りがある。	b
4　まとめ方が前と後とでは精粗・濃淡がある。	b′
＜部分的な把握＞	
5　付加的な部分にとわられ，要点がおさえられていない。	c
6　前半だけか，後半だけをまとめている。	d
7　はじめの部分だけか終わりの部分だけを書いている。	d′
8　文章に即応していない。	e

(1) 指導後の個人の要約力変容の状況

下の表は要約力テストの結果である。縦に指導後の評価の高い生徒の順に並べ横に評価の類型をとってある。aからeが評価で，aが最も高い評価，eが最も低い評価となる。

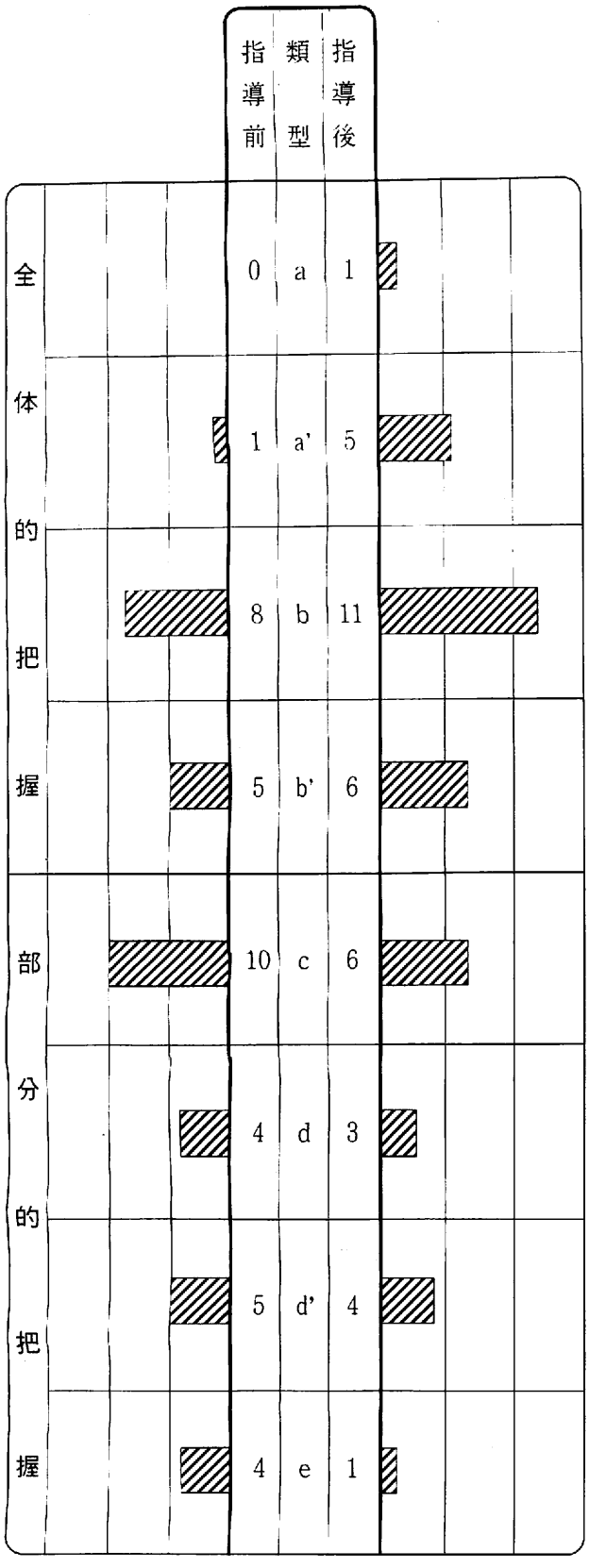
個人の変容の印［■ － 指導前，▲ － 指導後，● － 変化なし］（□囲みは女子）



考　察

37名中，26名に指導後，要約力の向上がみられた。しかし，残りの11名は変化がなかった。特に，評価番号29の男子と36の女子は，飛躍的な向上をみせている。ほとんど要約する力がなかったような生徒が，全体的把握ができるようになったのは，たいへんな進歩である。変化のなかった11名の指導が今後の課題である。きめの細かい丁寧な指導を継続する必要がある。

(2) 集団指導の深まりの状況



類型		男	女	合計	
(1) 同類型内での深まり	a' → a	0	1	1	8
	b' → b	2	3	5	
	d' → d	2	0	2	
(2) 不十分な把握から，やや完全な全体把握への深まり	b → a'	2	3	5	5
	b' → a'	0	0	0	
(3) 部分的把握から全体把握への深まり	C→a, a'	0	0	0	10
	C→b, b'	3	4	7	
	d→a, a'	0	0	0	
	d→b, b'	1	0	1	
	d'→a, a'	0	0	0	
	d'→b, b'	0	0	0	
	e→a, a'	0	0	0	
	e→b, b'	0	1	1	
(4) 部分的把握における深まり	d → C	0	0	0	3
	e → d'	2	1	3	
(5) 変化がない		5	6	11	

考察

集団の変化を見てみると，全体的把握ができるようになった生徒がかなり増えていることがわかる。a’は1名から5名に増えており，他の類型も軒並み増加している。

次に指導の深まりの状況を類型別にみる。(1)の同類型内での深まりは，b→a’が5名で，文章のあらましをまとめることができる生徒が増えたことを示している。(2)ではb→a’が5名おり，やや完全な全体把握ができるようになっている。(3)ではc→b，b’が7名もおり，部分的把握しかできなかった者が全体的把握ができるようになっているのは著しい進歩である。(4)では，e→d’が3名おり，僅かながら進歩が見られる。(5)が11名いるのは，指導の方法がまだ充分ではないことの表れであり，今後の課題である。

11　研究授業の考察

本授業では，説明的文章の読解力をいかに高めるかというテーマのもと，長い間，確固とした意識もなくおこなってきた自分の授業への反省を込めて，主に大西忠治氏の指導方法に学びつつ，計画的にその指導方法を実践してきたつもりである。しかしながら，事前準備の不足，理論や方法への理解力不足のため，自信を持って指導できなかった部分や生徒に十分理解させるだけのわかりやすさと指導時間の確保ができなかった点など，多くの反省点があった。しかし，一つの教材をやっただけで新しい学習の仕方を全部マスターさせることなど元々無理なことだと思えるので，今後継続して指導していけば，比較的理解力の低い生徒であってもある程度理解させることが可能であると思っている。また，新出漢字の指導方法は思い通りにうまくいった。法則化運動の方々がおこなっている「指書き・なぞり書き・写し書き」の三段階方式は，漢字を覚えさせるのに有効であることが，生徒たちの様子や事前・事後の漢字の豆テストの結果からわかった。

授業の中で他に反省する点としては，教師の説明や指示が長すぎること，無駄な言葉が入ったり同じ言葉の繰り返しが多いこと等，全体的に教師の話が多いという印象で，もっと生徒たちの発言や活動を多くさせるような授業を仕組む必要を感じた。

よかった点は，ハの字型座席のグループにしたことで，生徒たちが意見を出し合い，それぞれ思考することができたこと，理解が十分でなかったと思われるにも関わらず，各班とも発表することができた等である。

今後は，この「柱」の概念を取り入れた読解方法をいかに指導すれば，生徒たちにわかりやすいのか，創意工夫しながら十分に時間をかけて継続的に指導を続けていくつもりである。

Ⅷ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

生徒の変容を評価するため，指導前と指導後に要約力に関するテストを実施した。データ結果より指導後向上が認められたのが２６名，変化なしが１１名となっており，全体的に大きな変化が見られた。（C→b，b’）が7名もいるのは，部分的な把握から全体的な把握ができるようになったということで，文章を読むときに，柱の段落，柱の文の論理関係を意識していることの現れだと言える。

（b’→b）は5名，（b→a’）も5名おり，全体的な把握をする力が向上したことが認められる。全体的に見て，部分的な把握しかできなかった生徒の数が減少して，その分全体的な把握が出来る生徒数が増加している。

本研究の仮説は「1漢字指導・難解語句の指導を適切におこなうことで，文章の理解を容易にする事ができるであろう。2文章の構造を的確に押さえることができるように指導するならば，的確な要約もできるであろう。」であるが，実践授業後のデータを見ると，この方法は，研究テーマ「説明的文章の読解力を高めるための指導方法の工夫」の一つの方法として有効と思われる。

2　今後の課題

教科書に掲載されている説明的文章が，この指導方法で分析把握するのに必ずしもわかりやすいものばかりではないので、「柱」の概念の理解がよほど

確固としたものでないと，その応用力が発揮できない。だから、「柱」という概念を，生徒たちによりわかりやすく教える方法を考えていく必要がある。

また，実際の授業で指導していく場合，指導方法を体系化して，見通しをもって，綿密な指導計画のもとに，継続していかなければ，生徒の力として定着することは期待できない。

＜終わりに＞

学校現場では，いつも時間に追われ，毎日の授業の準備さえ満足にできていない状況で，こんな授業の繰り返しでいいのかという疑問がいつも頭の隅にありました。幸いにして，６ヶ月の研修期間を与えていただき，数多くの本や資料，先生方の貴重なお話，普段はできない体験等に接することができました。本当に楽しく有意義な半年間でした。

指導していただいた山田輝子先生，田中一郎所長を初め，研究所の先生方，入所を勧めてくださった田崎厚毅校長先生，激励してくださった教育委員会の先生方，いろいろお世話になった研究員の与古田，山城の両先生に，心より感謝申し上げます。

＜主な参考文献・引用文献＞

大西忠治　説明的文章の読み方指導　明治図書
大西忠治・科学的「読み」の授業研究会　国語教育評論８　明治図書
大西忠治　国語おもしろ勉強法　民衆社
中学国語２教師用指導書上　教育出版
教育科学国語教育 '(1988, 3)　明治図書
名護市立教育研究所　平成４年度後期教育研究員研究報告収録（第３号）
飯能市教育センターはんのうの教育　平成三年度飯能市教育センター研究紀要　第１１号